

教材・支援機器活用実践事例

【かけ算の筆算（3桁×2～3桁）が苦手な児童への学習支援】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	かけ算の筆算（3桁×2～3桁）
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーキングメモリー（作業記憶）を補い、繰り上がりの処理でのミスを防ぐ。 ○ 乗数の位によりかけ算の記入場所がずれることが分かる。 ○ 「紙と鉛筆があれば筆算できる」ことを目指す。
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手順や記入場所が分かり、正しく筆算することができる。 ○ 自分の誤り易い点や対策を自分の言葉でまとめ、意識する。
子どもについて	学級・学校・学年	通級による指導 小学校 第4学年
	対象の障がい	学習障がいや自閉症スペクトラム障がい
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーキングメモリー（作業記憶）が弱く、空間認知も苦手。 ○ たし算と九九は、ほぼ正確にでき、学ぶ意欲もある。 ○ 間違い方について、2～3段目のかけ算で、被乗数と乗数、記入場所が離れると、することと記入場所が分からなくなる誤りと足し忘れが多かった。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「はじめの一步」のワークシートをもとに作成した自作ワークシート ○ 蛍光ペン 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手順の保持、かけ算の繰り上がりやたし算の繰り上がりの保持をしながら九九唱をするかけ算の筆算は、ワーキングメモリー容量の少ない児童には操作のし忘れが起きやすい。色や数字、矢印で手順や記入場所を示し、繰り上がりを全てメモすることで、忘れることを防いだ。 ○ ワークシートからノートへの移行を段階的に実施し、定着を図った。
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを使用し、計算方法の習熟を図った。ミスしないための方法を、「ポイント」として自分の言葉でまとめ、記入できるようにした。 ○ 在籍校と家庭用にもクリアファイルに入れたワークシートを配付し、使用できるようにした。 ○ ワークシートからノートへの移行では、マーカーで色を付ける場所をワークシートとは逆の繰り上がりの記入場所のみとし、自分で書く負担を減らした。次第に、色が無くても記入する場所と数字の大きさや鉛筆の濃さの調整で区別できるようになると分かった。
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを使って繰り返し取り組んだり、在籍校や家庭学習でもワークシートを使用したりすると、ワークシートを使用しなくてもノートで筆算できるようになるまでの期間が短く、自分で取り組むことができるようになってきた。